

令和4年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	22341301	昆虫機能学Ⅰ	50	26	52	3.94	「シラバスの学習目標は明確だった」、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」について、平均より評価点が低かった。	新たなしい内容を積極的に取り入れたが、シラバスの改訂が間に合っていないかった。 次回は、事前に対応したい。	
2	22341303	作物学各論Ⅰ	31	21	67.7	4.56	アンケートの回収率は約70%であり、全ての項目において科目群平均を上回っていたことから、講義自体は概ね順調に進められたと思っている。しかしながら自主学習については、もう少し問題形式等も増やす必要があるかと思う。	春学期は原則対面にて講義できた為、実際の農作物を手に触れながら説明することが評価につながっていると考えられた為、次学期もできる限り実物を用いた講義を展開したい。	
3	22341306	天敵微生物学Ⅰ	37	23	62.2	4.54	本年度よりクォーター制となり、前年度前期で実施していた科目を春学期・夏学期に分けた形で、その春学期の授業であった。久しぶりにすべて対面での授業を行うことができた。授業アンケート実施については、対面とMoodleコース内の両方で回答を促し、回収率は62.2%と、全体の回収率（44.9%）を大きく上回った。アンケート結果では、全項目で科目群平均より高い値を得た。特に、項目「共-60」では科目群平均値を0.5上回った。また、項目「共-221」の値が前年度より改善し、受講者の学修意欲を引き出したことはよかったと思う。全般的に良好な評価を得たと考える。	PowePoint及び配布資料について、内容を適宜改訂しながら、引き続きより充実したものをを目指す。また、受講生の理解が深まるように丁寧に説明するとともに、興味や関心を引くよう心掛けたい。	
4	22341308	生物的防除学Ⅰ	41	27	65.9	4.42	回収率は66%と全体平均に比べるとかなり高かった。全10評価項目中、科目群平均を上回ったのが6項目、平均だったのが2項目、平均より0.1低いのが2項目であり、全体としては評価は平均か平均以上であった。とくに双方向性に関する評価項目は科目群平均4.0に対して4.7と非常に高い数値となっていた。授業への満足度も4.4と良好であった。	科目群平均を下回った2項目（共53と68）を平均以上になるように講義計画を立てたい。	
5	22341310	園芸科学各論Ⅰ	58	28	48.3	4.38	過去2年間間は新型コロナウイルス対策のためリモート（オンデマンド）形式で実施したが、本年度は対面形式で実施した。過去2年間よりも高い評価であった。	対面での講義を実施できる状況であれば、来年度も対面形式で講義を行う予定である。	
6	22341323	応用昆虫学Ⅰ	54	40	74.1	4.59	すべての項目において、担当講義の評価は科目群平均を上回っていた。とくに「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の評価は科目群平均3.7に対して4.3、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」の評価は科目群平均4.6に対して4.8であり、評価が特が高かった。双方向性の授業となるように、学生の自主的なプレゼンテーションを取り入れた結果と思われる。	科目群平均をすべての項目で上回ることができた。今後も対面ならびにオンラインを適宜混用しながら、自主的な学びにつなげられるような学習指導を行っていく。	
7	22341325	植物育種学総論Ⅰ	34	21	61.8	4.02	共通項目： 本年度より評価対象の授業科目のコマ数が15から8に半減した。2021年度から2022年度にかけて、農学研究院の科目群平均が0.2以上向上しており、オンライン授業から対面授業への切替えによる教育効果の改善が顕著であった。当該講義については、「共-67」「教員の説明はわかりやすかった」の達成度が低い（3.5）ことを除いて、農学研究院の科目群平均をやや下回る程度の評価結果であった。前年度に比べて評価項目10項目中9項目においてスコアが向上（上昇幅：0.3から0.9）しており、対面授業実施による改善効果が特に顕著であった。残りの1項目（共-68）「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」のスコアは4.3で、一昨年度比1.0、昨年度比1.8の上昇が見られたので、過去2年間のオンライン授業で出来た諸般の不都合が、当該年度の対面授業では克服されたと判断できる。3年ぶりに適正な授業を提供することができたと考えられる。  自由記述欄： 過去2年間（2020、2021年度）の自由記述欄で指摘された4つの問題点「（1）授業内容が難解、（2）説明が不良、（3）授業管理上の問題点、（4）遠隔授業への準備不足」については、「共-67」「教員の説明はわかりやすかった」の達成度がやや低い（3.5）ことを除いて、授業の改善効果が顕著であった。	「2023年度の授業への対応」については、引き続き (I) 難解さの克服、(II) 説明力の向上、(III) オンライン授業のスキルアップ、(IV) 学修意欲の啓発に努めて、全ての項目において科目群平均を上回り、なおかつスコア「4」以上の獲得を目指す。具体的には、以下の通りである。  (I) 難解さの克服 板書による説明と、情報を制限しない豊富な資料の提供 (II) 説明力の向上 難解かもしれない豊富な資料の根気強い読解と理解に努めるサポートを惜しまないこと (III) オンライン授業のスキルアップ 最新かつ普及度の高いオンライン授業のノウハウの導入を検討する (IV) 学修意欲の触発 適切な授業準備と受講生目線のPBL活動の実践	
8	22341327	植物生産生理学Ⅰ	53	32	60.4	4.47	平均を下回っている評点を得た項目はなかった。共-68及び共-81「教員は授業に十分準備して臨んでいた」、及び「教員は授業に対して熱意を持っていた」の評価が4.8であった。最も低かったのは学生の主体的学習（共-3）「授業内容に触発されて関係することを自分で学習した」と学習意欲を問う共-221「この授業内容についてより深く学びたいか」であったがそれぞれ4.2であり、低い値ではない。	一部の学生にとっては早口であったようなので、次回から改善したい。	今後も同様に高い評価を得るように努力したい。
9	22341329	植物病理学総論Ⅰ	37	21	56.8	4.36	回収率が56.8%であるが、概ね良好の評価を受けたものと分析される。	双方向の講義が出来るような工夫が必要。	
10	22342313	水理学Ⅱ	21	8	38.1	4.51	質問10項目のうち7項目で、「4：そう思う」と「5：強くそう思う」のポジティブ回答が9割を超えており、特に、本講義の満足度に関する評価点が4.8（科目群平均点が4.4）であったことから、受講生にとって意義が高く、かつ分かり易い授業を提供できたと考えられる。担当科目は数物系科目である。農学部学生において数物系科目は不得意とされ、かつ気難いされる科目であるなかで、本科目は受講生にとって満足いく科目であったと分析することができる。	双方向性、主体的学修、学修意欲についてより高く評価されるような講義内容を考えたい。具体的には、治水・利水の観点から実際の現場でどのように面に役に立つ専門科目であるのかを明確に示し、とくに学生が興味をもつような工夫を考えたい。	
11	22343302	生物生産機械学Ⅰ	13	6	46.2	4.24	回収率は6/13であった。 担当講義の評価は全項目で科目群平均と同程度であった。 「授業の難易度は適切であったか」、「この授業内容についてより深く学びたいか」が科目群平均を0.3～0.5ポイント下回った。本講義を初めて担当したため、講義内容が絞れておらず、説明も分かり辛く、興味を持ってなかったと考える。	まずは、講義内容を熟知するように自身のレベルアップを図る必要がある。その上で、重要な内容に絞ってテキスト開発を行う。 また、印刷物の不鮮明が指摘されていたので、注意して対応する。	
12	22343304	農産食料工学Ⅰ	14	7	50	4.41	平均値と比べれば概ね高い評価を得ることができた。毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示し、復習用に動画を視聴できる環境を整えたことにより、満足度も上がったと分析する。	双方向性について、授業時間外の質問等を含め、より積極的に対応していきたい。	
13	22343315	機械設計学Ⅰ	14	6	42.9	4.47	回収率は6/14であった。 担当講義の評価は全項目で科目群平均と同程度であった。 「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の項目が4.7と課題であった双方向性が改善されているのはプラス材料であった。「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」、「この授業内容についてより深く学びたいか」が科目群平均と同程度であったので、意識的に改善したい。	「この授業内容についてより深く学びたいか」と学生に思わせることが出来ないのは、自身の経験不足によるものと思う。普段から、講義科目と実践の関係を意識しながら、引出を増やし内容の充実を努める。 また、印刷物の不鮮明が指摘されていたので、注意して対応する。	

令和4年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
14	22344301	食料農業農村政策学	25	12	48	4.23	科目群平均を上回ったの評価項目が、「シラバス学習目標」「教員熱意」「総合満足度」、同じくほぼ同水準が「毎回目標」「授業難易度」「双方向性」「授業準備」「より深く学びたい」だった。平均を下回ったのが「教員説明」「触発自己学習」だった。「総合満足度」が高評価だったので全体としては成功裏に講義を行ったと考えられる。シラバス全体の目標はよく理解されたが、毎回講義の目標説明がやや不足だった可能性がある。毎回ミニレポートとそれへのフードバックが「双方向性」として相応の評価を受けた。「授業難易度」は適切だが「教員説明」が不十分、また「より深く学びたい」が概ね肯定だが「触発自己学習」は不十分、といった矛盾的な評価は分析が難しい。	「シラバスによる全体的学習目標の明確性」を維持しつつ、それを各講義毎の「目標」に落とし込んで明確化する。かなり膨大なオリジナル教材を作成・配布したが、講義全体をとおしてその広さと深さに照応した説明がやや不足していた可能性もあるので、次年度は量・質両面での精査を行いたい。	
15	22344302	農業経営学	37	16	43.2	4.60	評価項目10項目のうち9項目が科目群平均値を上回っており、1項目が科目群平均値と同値であった。評価項目のうち「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」、「学生と教員とのやりとりは双方向性があった」、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」の値は何れも4.8で十分に高いといえる。これらの点から、担当講義は概ね授業計画で期待した成果が得られている。	評価項目「この授業内容についてより深く学びたいか」は科目群平均値と同水準であり、「より深く学びたい」と思わせるさらなる工夫を要する。	
16	22344303	食料産業組織論	24	12	50	4.77	すべての項目において評点が農学部の平均を上回っており、高い評価を得ることができた。特に、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」「授業の難易度は適切であった」「教員の説明はわかりやすかった」「教員は、授業に十分準備して臨んだ」「教員は、授業に対して熱意を持っていた」という項目の評点が4.9、「シラバスの学習目標は明確だった」「総合的に考えて、現在この授業に満足している」という項目の評点が4.8と高かった。	高い評価を得ることができたので、今年度の授業内容等を来年度も踏襲したい。	
17	22344304	食料流通経済学	26	13	50	4.39	概ね科目群平均と同じか上回っているが、「説明の分かりやすさ」について、科目群平均4.4に対して4.2と下回っていた。絶対値では、双方向性、分かりやすさ、主体的学修、学修意欲の向上を図る余地がある。	現在の講義方法・内容を基本的に踏襲しながら、分かり易さと双方向性の向上を図っていくこと、また、より深く学ぶための教材の紹介等を少しずつ充実させていきたい。	
18	22344305	環境経済学	24	12	50	4.64	#N/A	#N/A	#N/A
19	22345305	生物物理化学Ⅰ	34	13	38.2	4.64	全体的に科目群平均より高い数値であるが、「主体的学習」の「授業に触発されて、関係することを自分で学習した」の項目のみが、科目群平均よりも低い値であった。回収率が低い。	「主体的学習」の項目を向上させるために、履修学生がより興味を持てる講義内容への修正を検討する。	
20	22345307	分子生物学詳論Ⅰ	59	21	35.6	3.97	アナウンスはしたもののアンケート回答率が35.6%と低いが、内容については全体的に高評価であったといえる。学生にとって有意義な授業を提供できたのではないかと思う。	今年で退官のため来年度以降はどうかかわからないが、学部として必要な分子生物学の講義に加え、何か有益になる情報の提供を願います。	個人的に最後の年に対面でたくさんの方に授業ができてよかった。
21	22345309	発酵微生物学Ⅰ	120	31	25.8	4.40	ほぼ全てのスコアが平均的な値であったが、授業に対して熱意を持っていた、という項目が高かったことに満足している。	毎回の授業で重要な目標を示した、という項目が低かったため、必ず授業の最初でコメントをしたいと思います。	
22	22345311	遺伝子制御学	43	20	46.5	4.49	ほぼ全てのスコアが平均的な値であったが、授業に対して熱意を持っていた、という項目が高かったことに満足している。	毎回の授業で重要な目標を示した、という項目が低かったため、必ず授業の最初でコメントをしたいと思います。	
23	22345313	土壌・環境微生物学Ⅰ	31	10	32.3	4.52	全回答項目で学部平均値よりも同等以上の評価が得られた。特に、学修デザイン、インストラクション、授業者の特徴で4.6-4.8点と高評価であった。一方、双方向性や学修意欲は4.0-4.1と学部平均と同等であり、改善の必要があることが分かった。また、講義中にアンケート回答を依頼したにも関わらず、回収率が32.3%と学部平均44.9%より低かった。	来年度は、双方向性授業を部分的に取り入れるなどの工夫をしたい。また、授業時間中にアンケート回答の時間を設けるなど、アンケート回収率の向上を図りたい。	
24	22345332	食品工業分析学	38	12	31.6	4.48	回答率が低いものの、総合評価から考えると、講義内容は良であると判断できる。	特に無し。	
25	22345344	植物生理・生化学Ⅰ	25	7	28	3.90	オンライン実施のため、魅力が伝わりにくかった面が見受けられた。	コロナが落ち着き、対面で実施できること、その際に身振りなどを交えながら魅力ある講義を行いたい。	
26	22345346	生物解析・機器分析法Ⅰ	36	11	30.6	4.20	オンライン実施のため、双方向の対応が不十分であると見受けられた。	コロナが落ち着き、対面で実施できるようになり、これを受けて双方向の対応をより実施できるようにしたい。	
27	22346303	森林政策学Ⅰ	48	17	35.4	4.31	総合的な満足度は4.6と科目群平均よりも高いものの、主体的学修（共-3）、学習意欲（共-221）では3.9であった。	主体的な学修を促したり、意欲を高めるために、事前学習によって考える力をつけるような講義になるように工夫する。	
28	22346305	造林学Ⅰ	34	8	23.5	4.00	1名の学生から、双方向性および授業内容への触発について、低評価であった。	概ね評価については平均値を維持していたため、大きな変更は必要としないが、質問等には丁寧に答える必要があると考えられる。	
29	22346307	植物代謝制御学Ⅰ	30	6	20	4.34	ほとんどの項目で科目群平均を上回っていた一方で、学生と教員とのやりとりは双方向性があるか、教員は授業に対して熱意をもっていたか、の項目が平均を下回っていた。	出席表に質問の項目をつくり、その質問に授業の冒頭で回答することで、双方向性のある授業にする。	
30	22346309	木質資源理学Ⅰ	32	9	28.1	3.14	#N/A	#N/A	#N/A
31	22346311	森林化学Ⅰ	10	3	30	4.47	受講者数、回答数が共に少ないので回答に偏りがあると思われる。これを前提等して、回答者は講義内容や方法については総じて満足している。講義の時間中に、質問をしたり、意見を求めることで双方向性を高めていることに対しては効果が認められる。	現状の良い部分については継続しつつ、講義の難易度についてはさらに検討する。	
32	22346321	木質材料工学Ⅰ	26	6	23.1	3.47	熱意・双方向性などでまずまずの評価を得たが他は低い評価である。	物理工学系の授業で、学生の私語も多く、多難であった。十分な注意が必要である。	
33	22346325	生体分子化学	23	9	39.1	4.03	専攻教育科目に相応しい高水準の「生体分子化学」について、単なる情報の伝達ではなく、基礎化学や科学的現象の本質・根本理解に重点をおいた講義を実施した。本年度はコロナウイルス感染症がようやく収まり、対面講義を実施することができた。スライド講義資料については、これまでと同様に事前にMoodleで事前に配信し、講義後に追加資料を配布することで理解度の向上に努めた。教員2名で多糖材料化学から再生医工材料学まで幅広く講義し、多くの項目で科目群平均を上回る高い評価を得た。比較的良質な講義を提供できたと考えている。その一方で、難易度や双方向性についての評価が低く、改善の余地がある。久々に期末試験も実施したが、点数にバラつきがあり、よく理解できた学生と学修が不十分な学生に分かれてしまったようである。	コース配属学生の37名中23名が受講し、意欲的な姿勢で授業に臨んでいた。最初に本講義の概要・位置付けを説明し、重要箇所を繰り返し説明する時間を取った。対面で実施したので、理解度を確認しながら進めたが、難易度が高いと感じた学生が多かったようなので、双方向性を意識しながら、より丁寧な講義の進行を図る。授業評価の回収率が39%に留まったので、授業評価の意義を丁寧に説明し、回答を促す働きかけをする。出欠や資料配布については、教員・学生双方ともMoodle利用に慣れ、ノートタブレットでとる学生が多いので、対面講義であってもモバイルツールの使用を前提で実施したい。オフィスアワーの利用学生はいなかったが、Moodleのメッセージ機能でのやり取りなど、新しい方法を取り入れて個々の学生のフォローアップを充実させたい。	
34	22346328	環境熱力学	19	7	36.8	4.55	「学修意欲」以外の項目で、科目群平均を上回っていた。「教員の熱意」および「満足度」がそれぞれ5.0および4.9と高い値であった。授業者の意図が伝わったものと考えている。	「学修意欲」の値が平均よりも低いのは、内容がやや難しいことによるものだろう。履修者にわかりやすい授業を心掛けた。	

令和4年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
35	22346342	森林保全学	31	8	25.8	3.83	アンケートの結果より、概ね学生の満足度は良いと思われるが、学生と教員との双方向のやりとりに関して低い評価であった。	講義の開始時に前回のレポートの解答を例示し解説を行うとともに、講義の後半に10分ほど質問時間を設定するよう工夫する。	
36	22346349	環境生物学Ⅰ	32	12	37.5	4.51	「シラバスの学習目標は明確だった」の項目以外は、全て平均値以上の点数であった。オムニバスのな講義であるために、学習目標をもっと明確に記載する必要があると思われる。	授業に関する満足度は4.7であり、高い評価を受けたが、シラバスについては、改善の余地がある。今回は、シラバスの内容の改善に取り組みたい。	
37	22346351	森林資源管理学Ⅰ	31	8	25.8	4.21	講義最終日にアンケート回答するように複数回指示したが、回答者が31名中8名（25.8%）と非常に少なかった。したがって分析可能な回答者が得られているとはいえない状況であるが、満足度は平均値であり、ある程度の評価は得られたと考える。双方向性に関する項目がやや低いが、コロナ禍の対面授業ということもあり、授業中に学生との対話は一切行わなかった。それに代わってMoodleを通じて授業に対する質問・コメントを提出させたが、忙しくて31名全員にできなかった回もあった。おそらくその時点で双方向性が十分ではないと感じた学生がいた可能性がある。双方向性をもたせたMoodleを使用した方式について改善をはかる必要がある。	授業評価アンケートに回答するよう講義の最初と最後に複数回指示する。コロナ禍であっても双方向性に考慮した授業づくりを行う。	
38	22346353	森林計画学Ⅰ	34	9	26.5	4.36	すべての項目で科目群平均と同等、もしくはそれをう回る評価であり、総合的な満足度については4.7であったので、全体的には問題ないと思われる。	「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」については4.3となり、科目群平均4.5を下回った。その原因の一つとして、複数ファイルの操作などで手間をかけたことが考えられるため、講義直前の準備も十分にしたい。	
39	22347301	動物繁殖生理学Ⅰ	18	9	50	4.41	学習デザイン、学修マネジメント、インストラクションおよび満足度は平均以上であり問題はないものと思われる。授業者の特徴、主体的学修および学修意欲が平均以下であり、もっと熱意を持って授業を行う必要がある。	今年度は研究室に配属された学部4年生が一人もおらず、学習意欲（この授業内容についてより深く学びたいか）の結果が反映されているようである。学生との対話を増やすことで改善していきたい。	
40	22347306	動物発生学Ⅱ	16	7	43.8	4.02	概ね科目群平均以上の評価であるが、難易度、学修意欲の項目で平均よりも低い評価であった。	授業後に小テストを導入して、授業ごとの学生の理解度を上げる。また、学生の興味を惹くような最新知見等を盛り込むことで、学修意欲を上げるよう努める。	
41	22347320	動物性食品製造学Ⅰ	25	17	68	4.23	全ての項目が科目群平均値と概ね同じであることから、平均的な評価であったと分析した。	声小さいとの指摘が1件あった。マスク越しの発声の影響と考えている。今後もこの状況は暫く続くと思われるので、マイクを使うなどの対応を考えたい。	
42	22347323	動物飼養生体制御学Ⅰ	16	12	75	3.93	履修登録者16名中、12名の回答であった（75%）。全項目を通して平均点は3.4～4.5であった。特に高い評価の項目は「教員は授業に十分準備して臨んでいた」（平均4.5）、「教員は授業に対して熱意を持っていた」（平均4.3）、「シラバスの学習目標は明確だった」（平均4.3）であった。一方で、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」（平均3.4）、「授業内容に発表されて、関係することを自分で学習した」（平均3.4）は低い点数であった。これらの項目の低さは農学部全体の平均にもあてはまる。「教員の説明はわかりやすかった」（平均3.7）も比較的低い点数であった。総合的に考えて、現在この授業に満足している」の項目は平均4.0であった。	本授業は昨年度までの担当教員の定年退職にともない、今年度から新しい担当となった。授業で扱う内容が多く、説明の仕方に改善の余地があったと思われる。双方向性や自主的な学修触発は、講義形式の授業では改善に困難がともなう点である。対面時やオンラインで質問コーナーを設けても、学生側からの質問はほぼなく、教員からの一方方向の発信になりがちなので、レポート課題への個別コメント返却などの方法が考えられる。	
43	22347327	藻類学Ⅱ	12	4	33.3	4.48	期末試験まで受講した11名中、アンケート回答者数が4名と回答率が27%程度では数値を客観的に評価できないが、その中で科目群平均を下回っていたのは、授業の難易度、教員の熱意、総合的な満足度であった。個人的には毎事業とも熱意をもって取り組んでいるつもりで、熱意に欠けていると捉えられるのは気落ちするし、学生の熱意に応えられない（学生の気持ちがあつかっていない）のは良い教師（模範的な教師）とは言えないかもしれない。	個別意見として、講義の資料が古いものが混ざっている、毎時間ごとの授業感想等のアンケートへのやり取り時間が短い（講義終了後1時間後まで）、スライド内容の関連性などが指摘されていたので、その点については改善する。期末試験の結果をみると（平均点73±8点）、内容の理解がいまいちであったこととの裏返しなので、練習問題を解いた後の解説を詳しくしたりとフォローアップを充実させてみたい。	調査アンケートへの回収率が低すぎる。教員への信頼度の低さからくるのかもしれないが、どうにかできないか？ 改善点を見つけやすくするために、5段階の評価項目を変更することはできないか？
44	22347345	動物遺伝育種学Ⅰ	17	6	35.3	4.20	ほぼ全ての項目で平均値であったが、インストラクション（教員の説明はわかりやすかった）が高く、主体的学修が低い値であった。より学生の学習意欲を高めるような説明を心がけたい。	学生の意見をより正確に把握するには、できるだけ多くの学生のアンケート結果を知るべきである。回収率が平均よりもかなり低いので、最終授業でアンケートの時間を取ることで回収率の改善を行う。	
45	22347349	水産資源学Ⅰ	32	10	31.3	4.56	10の項目のうち、9つで平均を上回っており、共68が4.9、共67、68、10が4.8など、総じて高い値であった。	共53の「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」については平均を0.1ポイント下回っていた。今回は重要点をより明確にして講義を進めるように工夫したい。	
46	22347351	魚類免疫学Ⅰ	17	8	47.1	4.73	すべての質問項目において、4.4～5.0と全体の平均を上回り、満足度も4.8であったことから、授業内容をおおむね授業内容を理解してもらえたかと思う。しかし、アンケート回収率が47.1%と半分以下であり、熱心に参加していた学生の意見を反映した結果かもしれないことを念頭に置き、魚類免疫学に興味をもってもらえるようにさらに改善するつもりである。	今年度初めて魚類免疫学ⅠとⅡに分けて実施したが、それぞれの学習目標の違いをより明確にすべきだったと思う。来年度は、シラバスにも魚類免疫学ⅠとⅡの関連について明記するつもりである。	
47	22347353	海洋微生物学Ⅰ	20	8	40	4.46	概ね高い評価であると考えられるが、学生と教員とのやりとりの双方向性に関しては課題があることが浮き彫りとなった	次回以降、クイズなどを講義の合間に挟むなどの対策を行い、双方向性の改善を試みる。	
48	22347355	浮遊生物学Ⅰ	22	20	90.9	4.35	10項目のうち9項目で平均以上であったので、概ね目標が達成できた。	項目「教員は、授業に対して熱意を持っていた」のみが平均4.6に対して、本講義が4.5と若干下回っていた。この項目で平均未達だったのは今回が初めてかもしれない。浮遊生物（プランクトン）に対する教員の思いについても今後講義に盛り込んでいきたい。	
49	22347357	水産生物環境学Ⅰ	17	6	35.3	4.21	ほぼ平均だったが、双方向性が高いことは評価された。ただ入力数が少ないが少し講義の魅力が不足していると感じられた。	改善したい。	入力数が少ない
50	22347360	海洋資源化学Ⅰ	31	20	64.5	4.35	本講義の評価は科目群平均と比較して、同程度もしくはやや高かったが、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」という項目が少し低かった。満足度に関する項目は科目群平均より高かったため、総合的な満足度は高かったと判断できる。	「教員は、授業に対して熱意を持っていた」という項目の評価が低かったので、熱意が伝わるように工夫したい。	
51	22347364	水産科学のフロンティア	27	12	44.4	4.41	科目群平均と比較して、おおむね、同程度の評価結果であること、また、主体的学修や学修意欲などの項目は科目群平均を上回っており、水産科学分野で学ぶ学生に対し、その分野の先進的な内容を講義する本科目の狙いが十分に達成されたと自己分析している。	水産科学教員全員で行うオムニバス形式であり、難しい面もあるが、科目群平均を下回った双方向性に関しては、何かしらの改善策を考えたい。	
52	22341302	昆虫機能学Ⅱ	39	19	48.7	4.05	「シラバスの学習目標は明確だった」、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」に関して、平均より評価点が低かった。	新しい内容を授業のい盛り込んだため、シラバスの改訂が不十分であった。今回は早期に準備したい。	

令和4年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
53	22341304	作物学各論Ⅱ	33	15	45.5	4.80	今期においては、結果的にオンラインとの併用で開講することとなり、履修生に対する評価が分かれると予想していたが、全ての項目において、平均評価を上回っており、本講義の内容や方法について概ね計画通りに進んだと考えられる。しかしながら、回収率が45%と低く、本数値が講義の実態を評しているか疑問も残る。	今期の講義同様に、実際の農作物等にも触れながら、解説することが重要だと考えている。また、状況に合わせてオンラインでの講義を併用することが履修生にとっても有用だと考えられたため、来期も柔軟に対応できるよう努める。	
54	22341307	天敵微生物学Ⅱ	37	17	45.9	4.70	本年度よりクォーター制となり、前年度前期で実施していた科目を春学期・夏学期に分けた形で、その夏学期の授業であった。春学期のⅡに続き、この夏学期のⅡも、すべて対面で授業を行うことができた。授業アンケート実施について、春学期と同様に対面とMoodleコース内の両方で回答協力を促したが、回収率は45.9%と、全体の回収率を上回ったものの、春学期よりも約16ポイント減少してしまっ。アンケート結果では、全項目で科目群平均よりも0.3~0.8ポイント高い値を示し、全般的に良好な評価を得ることができた。特に、学修目標の明確な提示、授業準備状況、および授業への熱意については、4.9と高い評価が得られた。受講生には授業内容に興味をもって理解し、概ね満足してもらえたと考える。	アンケート回収率を上げるべく、さらに協力を呼びかけたい。授業では、PowerPoint及び配布資料について、内容を適宜改訂しながら、引き続きより充実したものを目指す。また、受講生の理解が深まるように丁寧に説明するとともに、興味や関心を引くよう心掛けたい。	
55	22341309	生物的防除学Ⅱ	38	20	52.6	4.56	毎度低いアンケート回収率であったが、今回は以前より積極的にアンケートをお願いした結果、回収率が大きく改善した。評価の方も、全10項目において平均を上回る数値となった。特に双方向性については平均値が4.0に対して4.7となるなど、全体的に授業評価は高くなった。	引き続き、回収率の向上に努めたい。また、シラバスと自己学習の項目が平均より若干高い程度であるため、この2点を改善できるような講義を実施するように努める。	
56	22341311	園芸科学各論Ⅱ	50	21	42	4.61	今回の授業の評価はすべての項目において科目群平均よりも高かった。授業に対する評価としては「教員は授業に十分準備して臨んでいた。」という項目と「教員は授業に対して熱意を持っていた」という項目がどちらも4.8であり、授業への準備と熱意は伝わったものと思われた。ただし、学生の主体的学修は4.3であったことから、学生の興味を引き出すことに関して改善すべき点があると認められた。	総合的に考えて、この授業に満足したと考えている学生が76%以上認められたことから、授業の内容に関しては次回も今回同様でよいと思われた。ただ、学生と教員とのやりとりは双方向性があつたと感じた学生があまり多くなかったことから、双方向性を考慮した授業の進め方を考えたい。	今回の授業はおおむね対面で行うことができたが、学期終了間際の2回の講義は新型コロナウイルスの感染拡大のためオンラインで行わざるを得なくなったため授業の準備に苦労した。今後はオンラインでの授業も想定しての準備が必要と思われる。
57	22341324	応用昆虫学Ⅱ	37	31	83.8	4.66	すべての項目において、担当講義の評価は科目群平均を上回っていた。とくに「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」の評価は科目群平均4.4に対して4.7、「授業の難易度は適切であったか」の評価は科目群平均4.3に対して4.7、「教員の説明はわかりやすかった」の評価は科目群平均4.4に対して4.7、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」の評価は科目群平均4.5に対して4.8、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」の評価は科目群平均4.6に対して4.8であり、評価が特に高かった。学生の学習意欲を高めるようなコンテンツを取り入れた結果と思われる。	科目群平均をすべての項目で上回ることができた。今後も対面ならびにオンラインを適宜混用しながら、自主的な学びにつなげられるような学習指導を行っている。	
58	22341326	植物育種学総論Ⅱ	34	14	41.2	4.23	共通項目： 本年度より評価対象の授業科目のコマ数が15から8に半減した。2021年度から2022年度にかけて、農学研究院の科目群平均が0.2以上向上しており(？)、オンライン授業から対面授業への切替えによる教育効果の改善が顕著であった。当該講義については、(共-67)「教員の説明はわかりやすかった」の達成度が低い(3.4)ことを除いて、農学研究院の科目群平均をやや上回る同程度の評価結果であった。前年度に比べて評価項目のスコアが向上(上昇幅：0.3から0.9?)しており、対面授業実施による改善効果が特に顕著であった。過去2年間のオンライン授業で出来た諸般の不都合が、当該年度の対面授業では克服されたと判断できる。3年ぶりに適正な授業を提供することができたと考えられる。  自由記述欄： 過去2年間(2020、2021年度)の自由記述欄で指摘された4つの問題点「(1) 授業内容が難解、(2) 説明が不良、(3) 授業管理上の問題点、(4) 遠隔授業への準備不足」については、(共-67)「教員の説明はわかりやすかった」の達成度が低い(3.4)ことを除いて、授業の改善効果が顕著であった。	「2023年度の授業への対応」については、引き続き (I) 難解さの克服、(II) 説明力の向上、(III) オンライン授業のスキルアップ、(IV) 学修意欲の啓発に努めて、全ての項目において科目群平均を上回り、なおかつスコア「4」以上の獲得を目指す。具体的には、以下の通りである。  (I) 難解さの克服 板書による説明と、資料の提供 (MOODLE配信と白黒印刷の配布)  (II) 説明力の向上 難解かもしれない資料の受講生による「根拠強い読解と理解」のためにサポートを惜しまないこと  (III) オンライン授業のスキルアップ 対面授業となるのでその機会が減ると思われるが、最新かつ普及度の高いオンライン授業のノウハウの導入を検討する  (IV) 学修意欲の触発 適切な授業準備と受講生目標のPBL活動の実践、ならびに振り返り試験のレポートへの変換	
59	22341328	植物生産生理学Ⅱ	53	23	43.4	4.43	全て項目で平均を上回っていた。	今後もこの状況を維持できるように取り組みたい。	
60	22341330	植物病理学総論Ⅱ	37	14	37.8	4.44	概ね評価は良好と思われるが、双方向性の関係があまり機能していないと推察される。	受講生が興味を持てるような、最新の知見を交えた講義内容に改善の余地があるかもしれない。	
61	22342301	灌漑工学	23	10	43.5	4.23	概ねの評価であった。 回収率は15/30であった。	特段現在の内容を変更することはない。	
62	22342302	回帰分析入門	30	15	50	4.56	担当講義の評価は全項目で科目群平均を上回った。 学生のフィードバックに「書くことによるアウトプットと毎回の小テストによって学んだことが定着しやすい授業であったと思います。」という内容があった。 板書講義の有効性を確認するとともに、受講生の内容を定着させたいという意欲が垣間見れた。	受講生に講義内容を定着させたいという意欲を持って引き続き講義改善に取り組む。	
63	22342305	排水工学	23	11	47.8	4.52	各項目の平均値は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.7(昨年4.6)、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.7(昨年4.8)、「授業の難易度は適切であったか」=4.5(昨年4.4)、「学生と教員とのやりとりには双方向性があつた」=4.2(昨年3.4)、「教員の説明はわかりやすかった」=4.5(昨年4.5)、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.7(昨年4.7)、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.7(昨年4.4)、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=4.1(昨年3.8)、「この授業内容についてより深く学びたいか」=4.5(昨年4.0)、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.6(昨年4.4)、以上であった。	過去2年間は遠隔授業で、予め作成した講義ビデオをオンデマンドでストリーミング配信する形式としたが、今年度は全ての授業を対面で実施することができた。そのため、「学生と教員とのやりとりには双方向性があつた」=4.2(昨年3.4)」と大幅に向上した。それ以外の項目も、昨年度と同程度か、あるいは改善した。私の対面授業では、授業内容以外の関連する国内外動向などを雑談的に話す時間を多く取るが、アンケートの自由記述欄を見ると、この雑談が好評だったことが記載されている。全体として、良好な評価結果と解釈した。	
64	22342306	農業気象学	37	15	40.5	4.09	#N/A	#N/A	#N/A
65	22342309	薬境分析化学	36	14	38.9	4.09	集計項目の各点数から見て、授業の構成や学習目標については明確に示していたが、内容の分かりやすさが不足していたように思う。	シラバス等で表される講義の構成や到達目標はそのままに、内容の説明自体をもう一度見直したい。	

令和4年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
66	22342314	土質理工学Ⅱ	23	11	47.8	4.31	授業評価（授業アンケート）の回答率は47.8%と農学部の平均回収率（43.5%）より高くなり、前年度（38.1%）よりも幾分上昇（改善）した。今年度も前年度と同様に新型コロナウイルス感染防止のため、終盤の3回の授業はオンライン授業となったが、前年度（対面授業：8回、オンライン授業：8回）より対面授業の割合がかなり増加した。各項目に関する本授業の評価値（平均値）、農学部開講科目の平均値共に、前年度の授業評価結果とほぼ同じ（数値・傾向）であった。 授業評価結果は、共-3（授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した）、共-221（この授業内容についてより深く学びたいか）以外の項目の本授業の評価値は4.4以上であり、かつ農学部開講科目の平均値より何れも低くないことから、授業内容や授業方法については概ね支持されているようだ。特に、共-60の項目の本授業の評価値（4.4）が農学部開講科目の平均値（4.0）より高かった。一方、主体的学習や学修意欲に関する質問項目（共-3、221）の数値（本授業の評価値、農学部開講科目の平均値共に）が、他の項目よりかなり低いことが心配である。	今期が最後の授業担当のため、今回の授業（講義）への対応はなし。	
67	22342324	農村計画学	21	11	52.4	4.54	話し合いからポスター製作・発表までのすべてのグループワークをオンラインで実施する内容であったが、受講生の積極的な取り組みにより、概ね高い評価が得られた（「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した（4.3）」、「この授業内容についてより深く学びたいか（4.0）」以外の項目は4.5以上であった）。なお、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」に対して「そう思わない」と回答した受講生が1名いるが、グループワークの内容的にこれを行わないはずはないので、なぜこのような回答になっているのか疑問が残る。	自由記述欄で好意的な意見が多く寄せられたなかで、「テストを取り入れることでより知識が体系的になった」という提案を受けた。時間的にほとんど余裕がないため、本講義のなかでテストを実施することは難しいが、2年秋学期に開講している「農村計画学概論」で体系的な知識を身につけ、その知識をもとに本講義でグループワークを実践するという流れをより明確にできるように改善したい。	
68	22343303	生物生産機械学Ⅱ	13	7	53.8	4.23	評価としては学部平均より僅かに低い結果となった。講義内容や難易度も概ね適切であったとの評価であった。「この授業内容についてより深く学びたいか」などいくつかの項目で低い評価を行った学生もいた。	本講義の内容が、どのように社会に役立っているのかをより深く理解できる内容に改善することで、学生の学習意欲向上に繋げていきたいと考える。	
69	22343305	農産食料工学Ⅱ	14	4	28.6	4.30	全般的に高い評価を得たが、アンケート回収率が低く、参考程度となる。特に「教員は、授業に対して熱意を持っていた」と「この授業内容についてより深く学びたいか」に対する評価は高かった。より深く学びたい学生に対しては参考となる資料を案内するなど工夫したことによると考ええる。	特に問題は無いので、講義内容を最新の情報にアップデートする。	
70	22343316	機械設計学Ⅱ	14	8	57.1	4.40	シラバスの学習目標および学ぶべき重要な目標については学生に明確に示すことができた。本講義は農学DXに関連した講義科目で、ICTを使用した構造物設計基礎から3DプリンタやCNC加工機を用いた部品の製作とグループワークによる簡易走行ロボットの製作までを行う内容とした。構造物設計の基礎に関して、網羅的に学習できたとの評価が学生から得られていると判断した。	「授業の難易度」については3.8と他と比べて低評価であった。本件に関しては、学生の習熟度の差が影響していると考えられるので、講義テキストの見直しや講義中での説明を工夫することで、改善していきたいと考える。	
71	22344308	農業構造論	24	12	50	4.44	集計された全ての項目において平均以上だったことは、昨年度に比べて講義がうまく行えたことを意味していたと考えられる。特に「学修デザイン」「インストラクション」「授業者の特徴」において4.7を越えた数値を示せたことは、講義を行う者として自信になった。 一方で、「主体的学修」「学修意欲」においては、平均以上だったとはいえ、全体項目の中では相対的に低い点数だった。授業において分かりやすさを重視した結果、「もっと深く学びたい」「自力で調べたい」といった生徒自身の学修意欲をうまく引き出せていないと思われた。来年度はこの点を改善していきたい。具体的には、その時々（時代時代）の政策トピックや出来事を紹介したり、講義内容に関連した国内外の関連業績を紹介したりして、受講者の好奇心をより刺激できる内容を盛り込んでいきたい。	「5」で既述。	
72	22344309	農業農村計画論	33	13	39.4	4.44	評価項目10項目中、科目群平均以上の項目は9項目であり、平均に満たなかった項目でも平均よりも0.1ポイント低いという結果であった。また、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」という設問に関して、全回答者が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答しており、総じて学生の評価は良好であったといえる。特に、「学生と教員とのやりとりには双方向性があったか」の評価は4.5（科目群平均4.0）であり、高い評価が得られており、授業内における学生との対話や小レポートへのフィードバックが評価されたと考える。	主体的学修と学修意欲をさらに向上させるため、本講義と関連するタイムリーなトピックやテーマをより多く盛り込むことで授業の工夫をしたい。	アンケートの回収率について、授業内での周知やmoodle経由での再周知も行ったが、若干低い結果となった。今回は周回の回数を増やすなど工夫をしたい。
73	22344310	食料貿易論	25	18	72	4.22	10項目中、学部平均と比較して、±0.1ポイント以内が5項目、0.2ポイント以上が2項目、0.2ポイント以下が3項目であった。学部平均より0.2ポイント以下の項目は、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」および「この授業内容についてより深く学びたいか」であった。特に、前2つは昨年度も学部平均を下回った項目であり、改善を目指したが、学部平均を上回るには至らなかった。 なお、10項目の平均値は学部平均を0.05ポイント下回る値であったため、総合的な評価は概ね学部平均と同じであったと考えている。	一方向の説明を行う場面でも、学生に考えてもらう時間を設けるなど、学生が能動的に受講できるような工夫を行いたい。	
74	22344311	食料マーケティング論	26	14	53.8	4.09	授業の難易度の評価は科目群平均より低かった。この授業でRでのデータ分析を行っています。おそらくこの部分は学生にとっては難しかったみたいです。	今回はRno使い方は口頭で説明しただけですので、今回はRのチュートリアルを作って学生に配ります。授業後チュートリアルをもう一度読んだら分かりやすくなるかと思えます。	
75	22344312	生物資源経済論	25	12	48	4.64	評価の全項目について科目群平均を上回っていた。特に、4.8の評価を得た項目は3項目あり、授業の難易度の適切さ、授業に対する準備、授業に対する熱意であった。	相対的に評価の低かった項目は、この授業の内容について深く学びたいかであり、その評価は4.3であったので、今回はより学びたくなるような工夫を行なっていく。	
76	22345304	有機化学Ⅱ	35	12	34.3	4.28	現代有機化学（上）を使用し、実際の合成研究での利用例や注意点なども含めながら、丁寧に解説した。特に必要な内容は板書し、毎回レポート課題を課しながら、実際に書いてみることで知識の定着を試みた。	半年の講義で現代有機化学（上）を理解する講義内容であるため、要望にある中間試験を実施して知識の定着を確認したい。	#N/A
77	22345306	生物物理化学Ⅱ	34	9	26.5	4.67	すべての項目に点数が平均以上であったので、概ね問題ないと考えられる。	主体的学修と学修意欲の点数が低いので、自分で学習したり、より深く学びたいと考えるように促す努力を行いたい。	
78	22345308	分子生物学詳論Ⅱ	53	15	28.3	3.99	アンケート回答率が28.3%と低いが、内容については全体的に高評価であったといえる。学生にとって有意義な授業を提供できたのではないかと思う。	今年で退官のため来年度以降はどうなるかわからないが、学部として必要な分子生物学の講義に加え、何か有益になる情報の提供を願います。	
79	22345310	発酵微生物学Ⅱ	117	37	31.6	4.46	各項目は学部の平均値に近く、特に目立った項目はなかった。ただし、この授業に対する熱意は学生にも伝わったようで満足している。	各授業のつながりや、理解度を学生に問いつながら、授業を進めていければと考えている。	

令和4年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
80	22345312	合成生物学	24	6	25	4.49	アンケートの集計によると(29.2%)「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」の問いについてはどちらかと言えばそうとは思えない(33%)、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」の問いについてはどちらとも言えない(33%)と回答する学生が居たため、改良の余地があると考えられる。	学習目標についてさらなる明確化、学生からの学問への好奇心、関心、疑問の声に耳を傾けながら、工夫を凝らし授業を続けたいと考える。	
81	22345314	土壌・環境微生物学Ⅱ	31	30	96.8	4.31	学部平均値よりも同等以上の項目(学修デザイン、インストラクション、授業者の特徴)と低い項目(学修マネジメント、主体的学修、学修意欲)の評価であった。また、授業の補足となる課題を与えたが、その意図を説明していなかったため、改善の意見もあった。講義中にアンケート回答を依頼したことにより、回収率が96.8%と春学期の土壌・環境微生物学Ⅰより高かった。	来年度は、課題の意図を十分に説明して学生に理解してもらったうえで、課題を課したい。また、双方向性授業を部分的に取り入れたい、最近の話題を交えて主体的学修を高めたりするなどの工夫をしたい。	
82	22345317	栄養化学	42	17	40.5	4.13	まず、回収率が悪い。この改善は必要。 概ね、良好でした。授業の双方向性ですが、質問をしてくる学生はかなり少ない。機会を与えても、利用しない。双方向性の評価が低い。	授業の双方向性の評価について考えます。	
83	22345318	食糧化学	73	25	34.2	3.95	本講義は実生活に密着した内容であることから、興味をもって受講してくれた学生が多かったと思われる。内容を深く理解してもらうために講義資料(毎回、5~70ページ程度の講義スライドを配布)を準備して挑んだが、ボリュームが多く、要点を絞って内容をうまく伝えきれていないことが判明した。授業に対する熱意は伝わっていたが、丁寧に内容を説明するあまり、学生との双方向のやりとりで割く時間が短られたため、今後はこの点も改善していきたい。	要点を絞った講義スライドの作成に努め、学生が主体的に講義内容を予習/復習できるように工夫を心がける。また、できるだけ双方向の時間がもてるように細心の注意を払いたい。	
84	22345320	食品衛生化学	41	22	53.7	4.41	講義形式を黒板に板書する形式からPowerPointによるプレゼン形式に変更した。授業で示すスライドはPDFにして事前にMoodleを通して配布した。この形式により、予習や復習がしやすくなり、授業内容の理解度が高くなることを期待したが、「難易度」と「わかりやすさ」における評価は高くはなかった。また、演習を取り入れ積極的に学ぶことができるように配慮したが、「学修意欲」も高い評価を得ることはできなかった。	授業形式はこのままPowerPoint形式を継続することとし、「難易度」と「わかりやすさ」を改善するために、スライドの説明項目の見直しや例を増やすなどの工夫を行う。また、「学修意欲」を高めるために、授業で学んだことの実用性を示すようにする。	
85	22345341	食品品質学	38	38	100	4.36	評価項目のすべての項目において、良好な評価結果となっていた。	学生の学修意欲をさらに引き出せるような授業となるように工夫したい。	
86	22345345	植物生理・生化学Ⅱ	24	6	25	4.14	まず、登録者数24に対してアンケートの回収率が6(25%)だったので、十分な回収率とは言い難い。最も、実際には夏学期までに必要単位数を満たした学生が履修を取り消し、講義に参加したのは17名だったので、回収率は35%である。 学習デザインやインストラクション、熱意では平均が4.5であるのに対して、マネジメントや主体的学習、学習意欲については3台に留まった。	次年度以降はアンケートへの協力を促進する必要がある。試験後に記入の時間を作る、メールで呼びかけるなどに留意したい。 学習デザインやインストラクション、熱意は維持した上で、より学習意欲を促進し、主体的学習に取り組めるような動機付けを心がけたい。実問題との関連や未知の事象について各回の講義で取り上げるなどの試みを行いたい。	
87	22345347	生物解析・機器分析法Ⅱ	36	8	22.2	4.28	オンライン授業であったため、双方向の対応が不足していたと考えられる	コロナ対応が終了し、対面で実施できることで双方向性対応を増加させたい	
88	22345405	生物統計学	37	5	13.5	4.42	回収率がかなり低い。4年生の授業なので、データ整理に直結しているのが、高評価のポイントであろう。	回収率を上げること。	
89	22346302	森林砂防学	32	8	25	3.89	全体的に平均を下回っており、反省、改善すべき点が認められた。特に授業の説明の分かり易さに関する項目が低く、この点がアンケート結果に大きく影響していると分析した。	授業の内容を分かり易く伝えるために、講義資料等を見直すとともに、学生の理解度確認のため的小テスト等の実施と学生へのフィードバックの機会を増やすことで、改善をはかる。	
90	22346304	森林政策学Ⅱ	49	19	38.8	4.33	主体的学修(3.9)以外の項目については4.0ポイント以上であり、総合的な満足度は4.5ポイントであった。	主体的学修および学修意欲を増すために、授業中に作業を実施するなどの工夫をしたい。	
91	22346306	造林学Ⅱ	32	8	25	4.12	アンケートの回収が十分ではなかったものの、概ね適切と判断する。	学生が自ら考えて思考できるような講義の組み立てを検討する必要がある。	
92	22346308	植物代謝制御学Ⅱ	30	8	26.7	4.32	学生と教員の双方向性のやりとりが、科目群の平均を下回っていた。	出席表に講義で分からなかったことや疑問を記載する欄を設け、授業の冒頭で疑問等に答えることで、双方向のやりとりを行っていく。	
93	22346310	木質資源理学Ⅱ	32	8	25	3.98	#N/A	#N/A	#N/A
94	22346312	森林化学Ⅱ	10	2	20	4.45	回答率20%、回答数2で受講者全体の意見を反映しているとは言いがたいが、各項目の評価は高く、総合的に満足した回答が得られた。	講義中の学生の応答を見ながら、進度調節を行う。双方向性を高めるため、発表等の機会を増やす	
95	22346313	森林水文・水資源学	40	10	25	4.13	共221と共3が平均を若干上回ったものの、それ以外は平均並みかそれ以下であった。特に、総合満足度が平均より0.4も低い点は問題である。	シラバスの学習目標を明確に伝え、毎回の講義の要点を明確にする。	講義の総合的な満足度をあげるためには、どうしたらいいのだろうか。
96	22346322	木質材料工学Ⅱ	26	6	23.1	4.04	双方向性は高いが、学生の意欲が低い。講義そのものの意欲が原因か?	講義名、形式面を含め学生の意欲を高める必要があるかも知れない。	
97	22346326	森林生物工学	24	6	25	4.03	修学デザイン「シラバスの学習目標は明確だった」、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」においては高い数値を得ていたが「授業の難易度は適切であったか」については4を下回った。インストラクション「教員の説明はわかりやすかった」においても4を下回ったことから、難易度がやや高かったと推察する。また、修学マネジメント「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」においても4を下回ったことから、講義時間内に学生自らが考えながら講義に参加する機会が少なかったと分析する。	講義の進め方そのものは変更せず、全体的な難易度を見直し、双方向性の向上に繋がる講義を実施する。	
98	22346327	高分子材料学	17	4	23.5	4.33	「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」「教員は、授業に対して熱意を持っていた」「総合的に考えて、現在この授業に満足している」はいずれも4.8と高評価であった。一方、「授業の難易度は適切であったか」「この授業内容についてより深く学びたいか」は3.8であった。	評価点が相対的に低い項目については、要するにこの講義の難易度が高いということであるが、授業に対する満足度が高いため、次回以降もこれまで通りの内容で実施する。	
99	22346350	環境生物学Ⅱ	37	10	27	4.25	新しい科目として特に双方向性を意識して実施したが、共-60の値に反映された結果となった	双方向性は高まったが、授業の進行は遅れ気味となった。一方、DXへの対応も検討したい。	DX対応として内容を変更するか検討中です。
100	22346352	森林資源管理学Ⅱ	31	8	25.8	4.18	31名の受講者に対し回収数が10しかないで評価の分析は適切に行えないが、満足度は4.00と科目群平均4.4を若干下回っていた。コロナ禍であり、双方向性の授業を行えなかったことが一因であると判断された。	試験時の確認では全員が授業評価を実施した(これら行うも含む)と回答したが、実際にはほとんどが実施していないかった。次回は試験時に授業評価を実施する時間を設け対処したい。	
101	22346354	森林計画学Ⅱ	33	7	21.2	4.38	回収率21.2%(回答数7)が低い。すべての項目において、4.3以上の評価であり、全体的に科目群平均よりも同等もしくはそれ以上であり、全体的には評価は低くないと思われる。「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」「教員は、授業に対して熱意を持っていた」については、科目群平均よりも0.2ポイント低かった。この講義ではセクセルを利用した計算・考察が多く、エクセルの経験度合によって、学生間の理解度に差が生じていると考えられる。	回収率を上げるよう、周知徹底する必要がある。エクセルの利用については、さらに事前に準備をして、学生の経験度合の差の影響を小さくしたい。同時に、MatlabやRなどのシステムの導入も図っていきたい。	

令和4年度農学部授業評価まとめ【前期（春・夏学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
102	22347302	動物繁殖生理学Ⅱ	18	4	22.2	4.56	ほぼ全ての項目で平均以上の値であったが、授業者の特徴が平均より0.1ポイント低く、もっと熱意を持って授業を行う必要がある。	学生の意見をより正確に把握するには、できるだけ多くの学生のアンケート結果を知るべきである。回収率が平均よりもかなり低いので、最終授業でアンケートの時間を取ることで回収率の改善を行う。	
103	22347303	家畜生体機構学Ⅰ	10	4	40	3.95	本講義の授業評価の回収率は40%と半数に満たなかった。登録者数は10名だったので、4名からの回答だったことになる。10の質問項目のいずれにおいても全体平均を上回ったものはなかったが、その原因として全ての項目で「そう思わない」「どちらかと言えばそう思わない」と回答した者が1名存在したことが影響したためと思われる。仮にその回答者が同一人物であるならば、その受講生は本授業において十分な知識を身につけられなかったのではないかと危惧する。各回の終了時に質問等の有無を確認し、学習相談の方法についてもシラバスに明示していたが、授業に対する不満等を含め特段の意見が出されることは皆無であったため、その1名による低い授業評価が何によるものか判断することは困難である。他の回答はほとんどが「そう思う」という結果だったので、多くの受講生に対してはそれなりに納得できる授業を行えたのではないかと考える。	今回のような否定的な評価を行う受講生が出ることを予測することは困難であるが、授業内容に対する感想などを受講生から吸い上げる工夫が必要かもしれない。	
104	22347321	動物性食品製造学Ⅱ	22	14	63.6	4.33	回収率は63.6%であった。全ての項目で科目群平均値と概ね同じであったことから平均的な講義評価と分析された。「この授業内容についてより深く学びたいか」は平均値を大きく上回っていることは、興味を持って学習した学生が少なからずいたことを表しているかと推測している。	試食したいとの要望が1件あった。講義の内容からして試食は必要であると認識しており、次年度での実施を考えたい。	
105	22347324	動物飼養生体制御学Ⅱ	16	3	18.8	3.95	本授業の最終回は新型コロナウイルス感染症の関係で、試験後に動画のオンデマンド配信で実施し、動画の最後にアンケート依頼を掲載したのみであったため回収率が著しく低かった（16名中3名のみ）。評価分析ができるほどの回収率でなかったため詳細な分析は控える。アンケート依頼と同画面でレポート課題も出したため、多くの学生の関心はレポート課題のみに向いたようである。	今回は最終授業が特殊な形式であったため回収率が悪かった。次回は対面授業中に回答時間を設けて、全員に回答させるように心がける。	
106	22347326	水産増殖学	20	7	35	3.97	回答数7名と全体の1/3程度の回答率であるため、正確な傾向の判断は難しいが、全体的に科目群平均より若干低めの点数となっており、この理由をよく分析する必要がある。	2教員による講義体制であるが、教員間の講義内容の連結性が乏しいことが一つの課題点であると考えられたので、この点を改善し、来年度の講義に活かしたい。	
107	22347346	動物遺伝育種学Ⅱ	17	2	11.8	4.25	ほぼ全ての項目で平均以上の値であったが、学習デザイン（授業の難易度は適切であったか）と満足度が低い値であった。この2項目は連動しているものであり、理解度の低さが満足度に直結していると思われる。スライド内容を修正して学生の理解力向上に努める。	学生の意見をより正確に把握するには、できるだけ多くの学生のアンケート結果を知るべきである。回収率が平均よりもかなり低いので、最終授業でアンケートの時間を取ることで回収率の改善を行う。	
108	22347350	水産資源学Ⅱ	32	12	37.5	4.32	評価の10項目について、おおよそ平均水準であった。共211,共40が平均を0.3ポイント上回る反面、共81が平均を0.3ポイント下回っていた。	共81の「授業に対しての熱意」が低かったについては、オンラインや休講による影響も考えられる。次回は対面でスケジュール通り行えたと考えている。	
109	22347352	魚類免疫学Ⅱ	17	7	41.2	4.37	「シラバスの学習目標は明確」が4.1と全体の平均を下回った。今年度、初めて魚類免疫学ⅡとⅢに分けたが、それぞれの関連についてが不明確だったと考えている。	魚類免疫学Ⅱの内容を組み直し、その学習目標の違いを明確にし、シラバスに記載する。特に魚類免疫学Ⅱの学習目標を再考するつもりである。	
110	22347354	海洋微生物学Ⅱ	19	13	68.4	4.11	評価点は科目群平均と同レベルか、少し下回っていた。	双方向性に関する項目の評価が低かったため、この点について工夫をしたい。	
111	22347356	浮遊生物学Ⅱ	20	18	90	4.19	殆ど平均値付近で、概ね問題なく講義が実施できたと思うが、春学期の講義に比べて若干評価が下がっていた。10個の設問のうち、7問で「どちらとも言えない」と入力した学生数が3名いたのが影響しているようだった。例年、主体的学修と学修意欲が他の評価に比べて低く、今回も同様であったが反省点である。	主体的学修と学修意欲の評価が伸びるよう、学生が興味を持てる関連トピックを積極的に紹介していきたい。	
112	22347358	水産生物環境学Ⅱ	17	7	41.2	4.25	#N/A	#N/A	#N/A
113	22347359	水圏生態系の保全と再生	33	26	78.8	4.44	双方向性を除き、全てで科目群平均を上回っていた。説明の分かりやすさ、教員の講義準備、熱意、総合満足度で4.6-4.7と高い評価を受けた。新規に始めた講義で、また、高度で専門的な内容を多く含んだが、十分に教育目標を達成できたと判断している。	双方向性の部分に関して、更なる工夫を加えたい。	
114	22347361	海洋資源化学Ⅱ	27	20	74.1	4.30	評価は科目群平均と同レベルか少し高かった。	主体的学修の項目の評価が低かったため、この分野（科目）の面白さが伝わるような工夫をしたい。	
115	22349001	Technical Communication 1	10	5	50	3.06	#N/A	#N/A	#N/A
116	22349003	Technical Communication 3	10	3	30	3.97	Collected questionnaires are 3/10 (30%) only. Answers to 6/10 questions are above Average for Subject Group. Average scores for 5/10 questions are 3.7, while the averages for the remaining questions are greater than 4. One student answered 'Disagree' for question 共-211, while all other answers were 'Neutral,' 'Agree,' or 'Strongly Agree.'  Average for the course is 3.97. (Average for Subject Group is 3.89.)	improve collection rate (collected questionnaires)	
117	22349005	Introduction to Bioresource and Bioenvironmental Sciences 2	10	4	40	4.26	「（共-221）学修意欲：この授業内容についてより深く学びたいか」において最も低い評価（3.8）を得ているものの、科目群平均よりは上回っている。この科目特徴上、30を超える研究室を直接訪問し、教員とコミュニケーションする方法をとっているが、限られている時間内で実施されることもあり、「もっと知りたい」とのコメントがあったと考えられる。	今後は各研究室の情報を事前に共有することで改善を励み予定である。	
118	22349010	Systematics, Diversity and Evolution	21	8	38.1	4.79	アンケート回答数が21名の受講生中8名（38%）と少なめであったが、いずれの質問項目についても高い満足度を得ることができた。対面での授業の効果も確認することができた。	引き続き、十分な用意と新しいトピックスを追加し、知的好奇心の育成に努める。 また、アンケート回答数を増やすために、最終講義に回答時間を設ける。	
119	22349016	Elementary Economics	18	5	27.8	2.82	#N/A	#N/A	#N/A
120	22349033	Microbiology	11	5	45.5	4.12	この授業は受講者が少なく、アンケートに回答した学生も5名だけだったので、評価は難しいが、今後もさらに学びたいという回答が多いことから、微生物学のイントロとしては良い結果であったと考えている。	毎回、授業担当の教員が代わる形式の授業のために、各授業の連携が難しかったが、基礎編と応用編に分けて実施するようにしてからは学生の理解がより深まったと考えているため、この形式を続けていきたい。	
121	22340201	アグリフードシステムと農学	221	120	54.3	4.15	—	—	—
122	22340202	分子細胞生物学	219	90	41.1	4	—	—	—

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。

※整理番号121以降の授業については、アセスメントⅡ実施対象の科目のため、各コース・分野において授業評価表の分析を行います。

令和4年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
1	22341312	植物育種学各論Ⅰ	33	19	57.6	4.00	全体的に科目群平均より低めに出了が、平均に近い値が出ていた。質問boxを用意して回答に努めていたので双方向性については前回より改善されたと考えている。	論理的に突き詰めた授業をすることが上位層には重要だと思うが、ついてこれない学生にはむづかしく感じるようである。授業内部では本質の部分は変えずに、シンプルに伝えることに努め、興味ある学生については補足資料として授業から切り離して提供するなど、幅広い対応が必要と感じた。	
2	22341321	熱帯作物・環境学概論Ⅰ	61	29	47.5	4.36	本科目は複数の教員によるオムニバス形式で行ったが、いろいろな先生の話が聞けて面白かったとの意見があった。今回の授業に対して、各質問項目の評価は科目群平均よりみずれも高かったことから受講学生には興味を持ちやすい授業であったと考えられた。	本授業に対する受講学生からの評価は比較的高いものであったが、学生と教員とのやり取りに双方向性があったかという問いに対しての評価はやや低かったことから、教員からの一方的な講義になってしまった可能性がある。次回の講義では双方向性を意識した授業の組み立てを検討したいと思う。	
3	22342317	利水工学	21	9	42.9	4.51	すべての項目で4.2-4.7、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」（満足度）も4.6であったので概ね良好な評価であった。 自由記述で「学生へのケアが充実していて良かった」との意見を受けた。発熱などの理由で講義室に來られない学生に対して、Zoomを接続（録画）して聴講できるようにしたことが評価されたものと思われる。	概ね高い評価を受けたので、来年度以降も同様の評価が得られるように努めたい。好評だったZoom接続に関しては教員側の負担はほとんどないため、欠席者の有無にかかわらず講義記録として毎回録画することも今後検討していく。	
4	22343317	応用熱工学Ⅰ	13	6	46.2	4.03	学習目標や毎回の授業で学ぶべき重要な目標を明確に示すことで学生の意欲を高めた。やや難易度の高い内容があったため、「授業の難易度は適切か」の項目が平均値を下回った。しかしながら学習意欲や満足度などから総合的に判断すると、おおむね良好な評価であった。	「授業の難易度は適切か」の項目が平均値を下回った点については、授業後の学習をスムーズに行うための動画を作成し、繰り返し学習できる環境を整える。	
5	22345337	食品製造機械学	39	12	30.8	4.01	学生自らが発表準備することにより、主体的な学習ができたとの意見が多かった。学生による発表形式の講義であるため、教員の講義のパートについては不十分であるとの指摘が多かった。	本年度、初めての講義のため手探りの中スタートした。また、講義が15回から8回に変更されたため、内容が過密化した。今後も学生による主体的な発表形式を中心としつつ、講義の時間をうまく取り入れて、双方向性を高めた講義としていきたい。	
6	22345342	農業化学Ⅰ	32	11	34.4	4.10	全カテゴリーでの評価の平均が4以上であり、おおよそ満足できる講義であったと思われる。	主体的な学修の評価が3.5であったので、課題の工夫やプレゼンテーション等の導入などを検討を行いたい。	
7	22345348	分子生物学詳論Ⅲ	30	14	46.7	4.67	いずれの項目も科目群平均を上回っており、かつ、7項目で評価が4.6-5.0となっていた。したがって、学生からの評価は大変良かったと考えられる。	双方向性の項目も科目群平均を上回っており問題ないと考えられるが、評価が4.1であった。学生との双方向性を向上するような工夫をしていきたいと思う。	アンケート回収率が46.7%とやや低かったので、今後、回収率を上げるようにアナウンスを心掛けたい。
8	22345350	栄養生理学	81	24	29.6	4.24	授業評価全体は概ね良いが、双方向性に問題があるように書かれているが、質問をMoodleでとるようにしていたが、毎回1人2人ぐらしか質問をしてこない。したがって、多くの機会を与えているにもかかわらずその伝達がうまくいっていないと考えられる。今後の課題である。	質問しやすいようにします。	
9	22345352	食品保蔵学	42	13	31	3.91	受講者数に対してアンケートに回答している人数が低いことから、満足度はあまり高くなかった可能性があると感じている。今回、講義回数が15回から7回へと変更され、テキストを変更したことから、多少戸惑いと準備不足の点があったと思う。	次回はよりしっかりと準備をして臨みたいと思う。	
10	22347307	飼料・草地学Ⅱ	31	17	54.8	3.86	「草地学」から「飼料・草地学Ⅱ」へと移行し草地の現地見学が難しくなった。その分、草地の認識が難しくなったと思われる	現地の確認の代わりとなる視聴覚のデータの提供に努める。	
11	22347309	生物統計解析	33	26	78.8	3.78	全般に各評価項目が、全体の平均点より若干下回っていた。	授業内容の見直しを検討すべきと思われる。	
12	22347322	水族生化学Ⅱ	22	6	27.3	3.84	今年度初めて、全ての項目において評点が科目群平均値を下回った。これを深刻に受け止めて次回に活かしたい。	・授業内容の難易度、説明のわかりやすさについて、特に学生が不満に感じたことから、前提となる予備知識の説明、理解度をモニターしながら説明を変える、などを取り入れたい。細かな小テスト（理解度アンケート）を毎時間繰り返すことを検討する。また、復習可能な講義動画の記録なども検討する。	リモートで行った前年度と教授内容を変えていないのに、対面で行った今年度の満足度が低いことが完全には納得できていない。
13	22347347	畜産食品生産学Ⅰ	45	32	71.1	4.23	回収率は71.1%であった。1項目（共-53）を除いて、科目群平均を上回る評価点であったことから、概ね良好な講義であったと判断された。	「学ぶべき重要な目標」をより明確化するよう努める。講義の最終回にアンケートに回答する時間を設けたことが回収率の高さにつながったことは明らかであるので、これを継承する。	
14	22341313	植物育種学各論Ⅱ	31	12	38.7	4.56	教科書内容をベースに、近年の学術論文も題材に取り入れながら資料を作成・配布し講義を進めた。"学生と教員との双方向性"と"自分で学習したか"の2項目を除いて、すべて4.5以上の良い評価であった。4.5に達していない2項目（いずれも4.3）は、今後の課題となる。	自発的に質問が出るような雰囲気作り配慮・工夫しながら、次年度も講義の充実を図る。またトビックスの更新・見直しを図り、学生が触発されるよう授業内容の充実化を図る。	
15	22341322	熱帯作物・環境学概論Ⅱ	60	28	46.7	4.51	この講義は複数の教員によるオムニバス形式で行ったがすべてのアンケート項目において担当講義のスコアは高かった。特に、「教員は授業に対して熱意を持っていた」という項目では4.8という高いスコアであり、講義を担当した教員がすべて熱意をもって授業に臨んでいることがわかった。	次回の講義から担当の教員が交代するが、これまで通りこの授業には熱意をもって臨んでもらいたい。	

令和4年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
16	22342303	農地環境工学	42	14	33.3	4.57	本年度から生物生産システム工学分野の時間割が変更となり、当分野3年生の本授業受講が可能になったため、受講者（42名）が前々年度（27名）、前年度（26名）より大幅に増加した。しかしながら、授業評価（授業アンケート）の回答率は、前々年度（59%）より大幅に低下した前年度（38.5%）より、更に低く（33.3%）なった。 授業評価結果では、農学部開講科目の平均値より数値が悪かった項目はなく、各評価項目の評価値は何れも4.4以上であった。この結果から、回答率は十分とは言えないが、授業内容や授業方法については概ね支持されていると判断した。	後任の授業担当者に授業方針や授業内容、授業資料などを説明し、次年度の授業が円滑に実施できるように努めたい。	
17	22342304	園芸環境工学	56	45	80.4	4.58	すべての項目において科目群平均値を上回り、受講生の満足度は高かったと思われる。	主体的学習の評価が4.0であり、全体としては高かったものの、評価1が2名および評価2が3名いた。受講者の中に授業にあまり興味がない学生も一定数はいると予想されるが、そのような学生に対しても以下にモチベーションを高めて主体性を引き出すのが、今後の課題を思われる。	授業の一部でのグループワークを取り入れるのは、学生には刺激になるようである。
18	22342319	水文学	21	8	38.1	4.63	各項目の平均値（括弧内の数値は昨年度の値）は、「シラバスの学習目標は明確だった」=4.8（4.8）、「教員は、毎回の授業で、学ぶべき重要な目標を明確に示した」=4.6（4.8）、「授業の難易度は適切であったか」=4.6（4.7）、「学生と教員とのやりとりには双方向性があった」=4.3（4.7）、「教員の説明はわかりやすかった」=4.8（4.8）、「教員は、授業に十分準備して臨んでいた」=4.8（4.8）、「教員は、授業に対して熱意を持っていた」=4.8（4.8）、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」=4.5（3.6）、「この授業内容についてより深く学びたいか」=4.5（4.2）、「総合的に考えて、現在この授業に満足している」=4.6（4.85）、以上であった。 今年度は、学外業務との重複等で、4回を遠隔授業（講義ビデオのオンデマンド配信）とした。コロナ禍による遠隔授業のために一昨年度、作成した講義ビデオを昨年度に続きYouTubeにアップロードして、これを講義復習ビデオとして、希望者には授業後にオンデマンド・ストリーミング配信で視聴できるようにした。担当教員にとって2年目の試みであったが、授業アンケート結果は、昨年度と比較して、ほぼ同じで、効果的な授業構成、授業コンテンツが提供できたものと安堵している。	今年度は、ほぼ全て対面で授業を実施した結果、全項目で高評価を維持できた。 なお、アンケートの回収率は、昨年度が50.0%（=9/18）、今年度が38.1%（=8/21）であった。8～9割の回収率が望まれる。	
19	22343318	応用熱工学Ⅱ	13	4	30.8	4.45	おおむね良好な評価を得ることができた。授業の目標の明確化や熱意は伝わったものと思われる。授業の難易度がやや難というものと適当というもので二極化した点を改善する余地がある。	授業の難易度について学生間で差があった点については、事後学習のための動画をMoodle上にアップロードし対処したい。	
20	22345319	食品分析学	44	17	38.6	4.05	概ね授業内容、方針について理解が得られているものと思われる。	従来どおりに授業方針で進行していく予定である。	
21	22345321	食品製造工学	38	16	42.1	4.18	ほとんどの項目において、科目群平均と同等かそれ以上の評価であった。ただ、「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」と「この授業内容についてより深く学びたいか」に関しては平均よりも下であった。工学的な内容であったことが影響していると思われる。	物理を選択していなかった学生にもわかりやすかったとの評価だったことも含め比較的好評価だったため、次回も同様に進めていく予定である。	
22	22345322	微生物工学	72	52	72.2	4.07	この講義の主な内容は微生物の増殖について数学的に理解することを授業目標としている。農学部において、このような数学的な内容を学生にきちんと理解してもらうように講義することはそもそも簡単ではない。その中で、講義の評価は心配していたほど悪くはなく、学生にとっての理解しやすさはおおよそ科目群平均の評価をされている。一方、毎回課題を出していた割には双方向性に関する評価は低かった。また、自ら学習意欲を掻き立てるような講義でもなかったようである。	労力のかかることであるが、双方向性を高める工夫を少しずつしていきたいと考える。例えば、レポートに対して、毎回でなくてもよいので、コメントを付けて返却するなどするとよいと思われる。学習意欲を掻き立てる工夫は、授業内容にもう少し学生にとって身近に感じられる内容を盛り込むなどしていきたい。	
23	22345336	食品機能学	46	17	37	3.97	双方向性の対応が不十分であったと考えられる。	授業後のアンケートや小テストなどで双方向性の対応に努めたい。	授業後のアンケートや小テストなどで双方向性の対応に努めたい。
24	22345343	農業化学Ⅱ	21	7	33.3	4.25	評価全カテゴリーの平均が4以上であり、おおよそ満足ができる講義であったと思われる	主体的学修の評価が3.6であったことから、課題の改善やプレゼンテーションなどの導入を実施するなどして改善したい	
25	22345349	分子生物学詳論Ⅳ	24	8	33.3	4.50	一つの項目（共-3：主体的学修）を除いたすべての評価項目で平均を上回っていたので、適切な授業を行ったと判断した。	（共-3：主体的学修）が平均点を下回っていた。講義内容が専門的であったため、全ての学生に興味を持ってもらうのは難しいかも知れないが、可能な限り身近な話題を加えながら、多くの学生が興味を持ってくれるような講義を心掛ける。	
26	22345351	食品廃棄物処理学	41	16	39	4.13	回収率が少し低く、評価を単純に受け止めることに疑問はあるものの、評価は科目群平均とほぼ同じであった。双方向性と学修意欲が平均よりやや低く、授業準備と満足度がやや高い結果であった。	今回が初めての講義であり、暫くは同様の方式で講義を実施する。また、コロナ禍のため双方向性の担保に若干の問題があったことは、次回以降解決が可能と考える。	
27	22345353	食品加工学	44	17	38.6	3.98	カリキュラムの変更のため、本講義は今回初めての内容を教えることが多かった。そのため、学生からの指摘にもあったが、準備が不十分だったところがあったと思う。ただ、普段我々が食べている食品がどのように作られているのかを基本的な加工法を知ることが、他の講義（食糧化学、食品品質学、食品製造工学）で学んだことをつなげる役割は果たせたと考えている。	もう少し余裕を持って、講義に臨みたいと思う。	
28	22346301	森林資源環境モニタリング論	20	6	30	4.32	昨年度と比べて、共-60の値に上昇が見られた。また、全アンケートで平均点以上の値であった。全アンケート項目の中では共-3が低かった。	共-3：「授業内容に触発されて、関係することを自分で学習した」に対応するため、関連書籍やウェブサイト情報の充実を図る。	
29	22346357	森林資源・山村経済学Ⅰ	21	7	33.3	4.35	学修意欲「この授業内容についてより深く学びたいか」以外の項目については、科目群平均以上であり、質の高い授業を提供できたものとする。一方で学修意欲は科目群平均をやや下回っており課題である。	本講義は林業や木材流通に関する社会科学分野の講義であるが、自然科学分野の研究室の学生も受講している。そのため、メディアの活用など専門が異なる受講生たちが関心を持てるような授業を心がけたい。	

令和4年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
30	22346358	森林資源・山村経済学Ⅱ	17	4	23.5	4.36	全ての項目で科目群平均以上であり、4を上回っているため全体的に質の高い授業を提供できたものとする。	本講義は山村社会に関する社会科学分野の講義であるが、自然科学分野の研究室の学生も受講している。そのため、引き続きメディアの活用や演習を取り入れて専門が異なる受講生たちが関心を持てるような授業を心がけたい。	
31	22347304	家畜生体機構学Ⅱ	10	1	10	4.40	講義最終日に授業アンケートへ回答するように周知していたものの、1名からのみの回答しか得られず、学部全体の回収率にもはるかに及ばないものであった。また、本講義が選択必修科目となる分野からの受講者は全受講者の半数で、対象者の1/3に留まり、残りの半数は本講義が選択科目となる他分野からの受講者であったことは、学生が講義を選択する際の目的意識が以前とは変わっているような印象を受ける。後者に属する学生は軒並み成績が振るわず、アンケートの回収率からもさほど真剣には授業に臨んでいなかったのではないかとこの印象である。唯一のアンケート回答者がどちらの所属学生であるのか不明であるが、アンケートの結果は全体として悪いものではなかった。	次年度からは本講義の担当が変わることになるため、直接的に本年度の結果を受けた対応を行うことはできないが、進級時に学生の講義選択についてある程度方向性を提示する必要があると考える。	
32	22347348	畜産食品生産学Ⅱ	34	21	61.8	4.15	アンケート回収率は64.7%であった。3項目（共-53, 211, 67）の評点が科目群平均を下回った。「満足度（総合的に考えて、この授業に満足している）」の評点は4.3であることから、概ね良好な講義であったと判断された。	評点が科目群平均を下回った項目は「学ぶべき重要な目標の明確化」、「教員の説明のわかりやすさ」、および「授業の難易度」であったので、これらを改善する方法を具体化する。即ち、目標の明確化と講義の難易度にあった説明時間の確保と考え、これらを実践する。	
33	22340207	数値解析学Ⅰ	43	18	41.9	4.21	—	—	—
34	22340209	ミクロ経済学	23	11	47.8	4.61	—	—	—
35	22340210	政治経済学	29	16	55.2	3.59	—	—	—
36	22340211	生物化学Ⅰ	150	65	43.3	4.47	—	—	—
37	22340213	数値解析学Ⅰ	41	19	46.3	4.33	—	—	—
38	22341201	遺伝学Ⅰ	59	25	42.4	4.12	—	—	—
39	22341203	作物学総論Ⅰ	72	35	48.6	4.19	—	—	—
40	22341210	園芸科学総論Ⅰ	74	35	47.3	4.16	—	—	—
41	22341212	植物生理学Ⅰ	57	29	50.9	4.26	—	—	—
42	22341214	基礎昆虫学Ⅰ	39	17	43.6	4.33	—	—	—
43	22342322	農村計画学概論	31	13	41.9	4.22	—	—	—
44	22343312	農業施設学	19	11	57.9	4.49	—	—	—
45	22343313	熱工学	13	8	61.5	4.33	—	—	—
46	22344205	計量経済学	21	8	38.1	3.89	—	—	—
47	22345204	分析化学Ⅰ	72	32	44.4	4.12	—	—	—
48	22345206	基礎微生物学Ⅰ	76	31	40.8	3.84	—	—	—
49	22345212	単位操作	78	38	48.7	3.89	—	—	—
50	22346208	材料物理化学Ⅰ	36	15	41.7	3.60	—	—	—
51	22346210	環境地学Ⅰ	59	20	33.9	4.11	—	—	—
52	22346212	木質構造力学Ⅰ	38	10	26.3	3.08	—	—	—
53	22346215	森林環境経営学	47	15	31.9	4.17	—	—	—
54	22346216	森林生態学Ⅰ	75	18	24	3.80	—	—	—
55	22347205	魚類学Ⅰ	43	34	79.1	4.22	—	—	—
56	22347207	動物学Ⅰ	43	21	48.8	3.84	—	—	—
57	22347210	動物生理学Ⅰ	43	28	65.1	3.98	—	—	—
58	22347212	水族生理生態学Ⅰ	50	21	42	3.39	—	—	—
59	22347214	動物組織学Ⅰ	42	16	38.1	4.04	—	—	—
60	22347216	動物行動生態学Ⅰ	97	48	49.5	4.38	—	—	—
61	22347218	藻類学Ⅰ	36	19	52.8	4.13	—	—	—
62	22347220	動物発生学Ⅰ	41	19	46.3	3.79	—	—	—
63	22349107	Introduction to BBS 1-I	10	6	60	4.48	—	—	—
64	22349113	Analytical Chemistry I	10	6	60	4.26	—	—	—
65	22349119	Physiology I	12	6	50	4.57	—	—	—
66	22349123	Basic Ecology and Biology I	15	12	80	4.59	—	—	—
67	22349135	Elementary Statistics I	17	7	41.2	3.79	—	—	—

令和4年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
68	22340203	生物生産生態学	110	35	31.8	3.98	—	—	—
69	22340205	有機化学Ⅰ	96	47	49	3.88	—	—	—
70	22340206	物理数学	127	51	40.2	4.38	—	—	—
71	22340208	数値解析学Ⅱ	43	17	39.5	4.41	—	—	—
72	22340212	生物化学Ⅱ	148	58	39.2	4.17	—	—	—
73	22340214	数値解析学Ⅱ	41	17	41.5	4.44	—	—	—
74	22341202	遺伝学Ⅱ	46	14	30.4	4.46	—	—	—
75	22341204	作物学総論Ⅱ	70	25	35.7	4.35	—	—	—
76	22341205	微生物学	33	12	36.4	4.06	—	—	—
77	22341211	園芸科学総論Ⅱ	70	24	34.3	4.45	—	—	—
78	22341213	植物生理学Ⅱ	42	15	35.7	4.40	—	—	—
79	22341215	基礎昆虫学Ⅱ	36	11	30.6	4.50	—	—	—
80	22342201	土壌学	80	79	98.8	4.23	—	—	—
81	22342202	気象学	45	12	26.7	4.06	—	—	—
82	22342203	水環境工学	41	11	26.8	4.49	—	—	—
83	22342204	水理学Ⅰ	36	10	27.8	3.98	—	—	—
84	22342205	土質理工学Ⅰ	18	4	22.2	4.28	—	—	—
85	22342208	生物生産環境工学概論	22	4	18.2	4.06	—	—	—
86	22342323	土壌物理学	17	4	23.5	3.67	—	—	—
87	22343201	農業情報学	30	12	40	3.68	—	—	—
88	22343311	構造力学	28	9	32.1	3.86	—	—	—
89	22344202	経営学	24	12	50	4.36	—	—	—
90	22344203	流通論	22	7	31.8	4.58	—	—	—
91	22345205	分析化学Ⅱ	69	66	95.7	3.94	—	—	—
92	22345207	基礎微生物学Ⅱ	73	38	52.1	3.94	—	—	—
93	22345208	物理化学	65	38	58.5	4.07	—	—	—
94	22345213	反応工学	79	43	54.4	4.38	—	—	—
95	22345214	生命化学	36	24	66.7	4	—	—	—
96	22345215	遺伝子工学	38	24	63.2	3.75	—	—	—
97	22345216	生物化学Ⅲ	39	23	59	4.05	—	—	—
98	22346207	木質科学	45	8	17.8	3.98	—	—	—
99	22346209	材料物理化学Ⅱ	36	11	30.6	4.02	—	—	—
100	22346211	環境地学Ⅱ	57	14	24.6	4.1	—	—	—
101	22346213	木質構造力学Ⅱ	38	7	18.4	3.14	—	—	—
102	22346214	森林環境社会学	47	15	31.9	4.1	—	—	—
103	22346217	森林生態学Ⅱ	80	23	28.8	4.03	—	—	—
104	22347201	動物生産科学概論	38	35	92.1	4.28	—	—	—
105	22347204	無脊椎動物学	46	16	34.8	4.69	—	—	—
106	22347206	魚類学Ⅱ	44	35	79.5	4.48	—	—	—
107	22347208	動物学Ⅱ	40	13	32.5	4.44	—	—	—
108	22347209	飼料・草地学Ⅰ	55	18	32.7	4.43	—	—	—
109	22347211	動物生理学Ⅱ	43	15	34.9	4.33	—	—	—
110	22347213	水族生理生態学Ⅱ	51	12	23.5	4.22	—	—	—
111	22347215	動物組織学Ⅱ	36	14	38.9	4.19	—	—	—
112	22347217	動物行動生態学Ⅱ	59	15	25.4	4.49	—	—	—
113	22347219	水族生化学Ⅰ	55	23	41.8	4.13	—	—	—
114	22349108	Introduction to BBS 1-II	10	3	30	4	—	—	—
115	22349114	Analytical Chemistry II	10	3	30	4.54	—	—	—
116	22349120	Physiology II	12	3	25	4.01	—	—	—

令和4年度農学部授業評価まとめ【後期（秋・冬学期）】

整理番号	講義コード	講義名称	履修者数	回収数	回収率	平均値	授業評価表の分析	次回講義への対応	その他
117	22349124	Basic Ecology and Biology II	15	6	40	4.61	—	—	—
118	22349136	Elementary Statistics II	17	5	29.4	3.7	—	—	—

※色がついた授業は平均値が4.5以上です。

※整理番号33以降の授業については、アセスメント1実施対象の科目のため、各コース・分野において授業評価表の分析を行います。